

日本呼吸器内視鏡学会でのダイバーシティ推進の取り組み

日本呼吸器内視鏡学会
ダイバーシティ推進委員会
委員長 川口 知哉

ダイバーシティ推進は、性別はもちろんのこと、今や年齢、障害、国籍などの多様性を尊重する活動になっています。さらに、多様性に基づく平等性を確保、提供するだけでなく、組織の中で多様性を認め合うことが重要視されています。

そのような背景で、呼吸器内視鏡学会では、2023年度よりダイバーシティ推進委員会が発足しました。3つのワーキンググループ（WG）を立ち上げ、交互に連絡を取り有機的に活動しています。

ウーマンフォワードWG（女性参画）では、女性会員割合/専門医/指導医取得割合/評議員割合の3%の増加、女性医師が長いスパンで活躍できる学会づくりを目標に活動を進めています。具体的には、女性医師のpick upや資格取得を促すメールを送付する等の草の根活動を行っています。また、推薦評議員枠に女性推薦枠を設けることを議論しています。学会・支部会・委員会での座長への積極的な女性の登用や、オンデマンド・ハイブリッドの継続を行う予定です。

ライジングドクターWG（若手医師参画）では、学術集会での、若手向けの表彰を行うことを確認しました。また、若手向けセッションを学術集会やセミナー等で実施していくことを検討しています。若手向けコンテンツのe-learningの作成を検討中です。

気管支鏡チーム医療推進WG（多職種連携）では、メディカルスタッフ向けの手引き書の作成や、メディカルスタッフ向けの気管支鏡検査への関与状況を調査する簡易アンケート、メディカルスタッフへの講演会、勉強会の実施に取り組んでいます。